

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

CF014845 US 1/2

09/670893

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

1999年10月 4日

出願番号

Application Number:

平成11年特許願第283097号

出願人

Applicant (s):

キヤノン株式会社



CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

RECEIVED

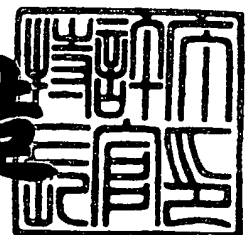
JAN 19 2001

Technology Center 2100

2000年10月27日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



【書類名】 特許願
【整理番号】 4074017
【提出日】 平成11年10月 4日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 H04N 5/00
【発明の名称】 端末装置、ネットワークシステム、機器管理方法、及び
記憶媒体
【請求項の数】 14
【発明者】
【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号 キヤノン株式会
社内
【氏名】 柿本 厚志
【特許出願人】
【識別番号】 000001007
【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
【代理人】
【識別番号】 100090273
【弁理士】
【氏名又は名称】 國分 孝悦
【電話番号】 03-3590-8901
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 035493
【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9705348
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 端末装置、ネットワークシステム、機器管理方法、及び記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 ネットワークを介して他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された複数の端末装置を含むシステム内の少なくとも 1 つの端末装置であって、

上記システム内に存在する共有デバイスの情報を保持する保持手段と、

少なくとも他装置からの要求に基づいて、自装置の共有デバイスによって得られた情報を当該要求元へ提供するサーバ手段と、

上記保持手段内の情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント手段と、

上記サーバ手段と上記クライアント手段の間での情報交換を行なうための通信手段と、

自装置の共有デバイスの機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有デバイスの情報を上記システム内で公開するサーバ拡張手段と、

上記保持手段内の情報に基づいて、上記通信手段を介して上記サーバ手段へ自装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント拡張手段と、

他の装置から公開された当該装置の共有デバイスの情報、及び上記サーバ拡張手段により公開された共有デバイスの情報の少なくとも何れかの情報に基づいて、上記保持手段内の情報を更新するデバイス管理手段とを備えることを特徴とする端末装置。

【請求項 2】 ネットワークを介して他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された複数の端末装置を含むシステム内の少なくとも 1 つの端末装置であって、

少なくとも他装置からの要求に基づいて、共有デバイスによって得られた情報を当該要求元へ提供するサーバ手段と、

上記システム内に存在する共有デバイスの情報が保持されている保持手段内の情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有デバイスの使用を要

求するクライアント手段と、

上記サーバ手段と上記クライアント手段の間での情報交換を行なうための通信手段と、

自装置の共有デバイスの機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有デバイスの情報を上記システム内で公開するサーバ拡張手段と、

上記保持手段内の情報に基づいて、上記通信手段を介して上記サーバ手段へ自装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント拡張手段と、

他の装置から公開された当該装置の共有デバイスの情報、及び上記サーバ拡張手段により公開された共有デバイスの情報の少なくとも何れかの情報の変化に基づいて、上記保持手段内の情報の更新を要求するデバイス管理手段とを備えることを特徴とする端末装置。

【請求項 3】 上記サーバ拡張手段は、自装置の共有デバイスの状態が変化した時、自装置の立ち上がり時、及び自装置の起動終了時の何れかに、自装置の共有デバイスの情報、及びその変化の情報の少なくとも何れかを公開することを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の端末装置。

【請求項 4】 上記保持手段内の情報に基づく画面を表示する表示手段を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の端末装置。

【請求項 5】 上記システム内での有効な端末装置の情報を管理する端末管理手段を備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の端末装置。

【請求項 6】 上記有効な端末装置は、ドメイン内でアクセス権を有する装置を含むことを特徴とする請求項 5 記載の端末装置。

【請求項 7】 少なくとも他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された端末装置を含む複数の端末装置が、ネットワークを介して通信可能に接続されてなるネットワークシステムであって、

上記複数の端末装置のうち少なくとも 1 つの機器は、請求項 1 ～ 6 の何れかに記載の端末装置の機能を有することを特徴とするネットワークシステム。

【請求項 8】 他の装置から使用可能に機能する共有機器が接続された端末装置を含む複数の端末装置が、ネットワークを介して通信可能に接続されてなるネットワークシステムにおいて、共有機器を管理するための機器管理方法であっ

て、

上記システム内に存在する共有機器の情報を保持する保持ステップと、

少なくとも他装置からの要求に基づいて、自装置の共有機器によって得られた情報を当該要求元へ提供するサーバステップと、

上記保持ステップにより保持された情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有機器の使用を要求するクライアントステップと、

上記サーバステップと上記クライアントステップの間での情報交換を行なうための通信ステップと、

自装置の共有機器の機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有機器の情報を上記システム内で公開するサーバ拡張ステップと、

上記保持ステップにより保持された情報に基づいて、上記通信ステップを介して上記サーバステップに対し、自装置の共有機器の使用を要求するクライアント拡張ステップと、

他の装置から公開された当該装置の共有機器の情報、及び上記サーバ拡張ステップにより公開された共有機器の情報の少なくとも何れかの情報に基づいて、上記保持ステップにより保持された情報を更新するデバイス管理ステップとを含むことを特徴とする機器管理方法。

【請求項 9】 上記サーバ拡張ステップは、自装置の共有機器の状態が変化した時、自装置の立ち上がり時、及び自装置の起動終了時の何れかに、自装置の共有機器の情報を公開するステップを含むことを特徴とする請求項 8 記載の機器管理方法。

【請求項 10】 上記保持ステップにより保持された情報に基づく画面を表示する表示ステップを含むことを特徴とする請求項 8 記載の機器管理方法。

【請求項 11】 上記システム内での有効な端末装置の情報を管理する端末管理ステップを含むことを特徴とする請求項 8 記載の機器管理方法。

【請求項 12】 上記有効な端末装置は、ドメイン内でアクセス権を有する装置を含むことを特徴とする請求項 11 記載の機器管理方法。

【請求項 13】 請求項 1～6 の何れかに記載の端末装置の機能、又は請求項 7 記載のネットワークシステムの機能を実施するための処理プログラムを、コ

ンピュータが読出可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【請求項 1 4】 請求項 8～1 2 の何れかに記載の機器管理方法の処理ステップを、コンピュータが読出可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明は、例えば、複数の端末装置が接続されてなるネットワーク上において、ある端末装置に接続されたプリンタや画像入力装置等の機器を、他の端末装置から使用可能に構成されたシステムに適用される、端末装置、ネットワークシステム、機器管理方法、及びそれを実施するための処理ステップをコンピュータが読出可能に格納した記憶媒体に関するものである。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

例えば、パーソナルコンピュータ（以下、単に「パソコン」と言う）等の複数の端末装置が、ネットワークを介して互いに通信可能なように接続されてなるネットワークシステムにおいて、ある端末装置にローカルに接続されている、プリンタ、スキャナ等の画像入力装置、ディスクドライバ等、様々な機器（デバイス、以下、「リソース」とも言う）を、他の端末装置からネットワークを介して使用可能なシステムがある。

【0 0 0 3】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上述したような従来のネットワークシステムでは、ネットワークを介して他の端末装置が使用可能なリソース（共有リソース）を一元的に管理して、各リソースの状態のチェック等を効率的に行なうことができなかった。また、様々な種類の共有リソースを、自由に追加したり、或いは削除したりすることも非常に困難であった。

このため、従来では、新たな共有リソースがネットワーク上に出現した時、すなわち新たな属性を有する共有リソースが出現した時、その共有リソースを、汎用のインターフェースを利用して自由に使用することができなかった。

【 0 0 0 4 】

そこで、本発明は、上記の欠点を除去するために成されたもので、ネットワーク上の共有リソースを効率的に一元管理することができ、様々な種類の共有リソースの追加及び削除を容易に実現でき、新たな共有リソースの出現時には当該共有リソースを汎用インターフェースを利用して自由に且つ容易に使用できる、端末装置、ネットワークシステム、機器管理方法、及びそれを実施するための処理ステップをコンピュータが読出可能に格納した記憶媒体を提供することを目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段】

斯かる目的下において、第 1 の発明は、ネットワークを介して他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された複数の端末装置を含むシステム内の少なくとも 1 つの端末装置であって、上記システム内に存在する共有デバイスの情報を保持する保持手段と、少なくとも他装置からの要求に基づいて、自装置の共有デバイスによって得られた情報を当該要求元へ提供するサーバ手段と、上記保持手段内の情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント手段と、上記サーバ手段と上記クライアント手段の間での情報交換を行なうための通信手段と、自装置の共有デバイスの機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有デバイスの情報を上記システム内で公開するサーバ拡張手段と、上記保持手段内の情報に基づいて、上記通信手段を介して上記サーバ手段へ自装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント拡張手段と、他の装置から公開された当該装置の共有デバイスの情報、及び上記サーバ拡張手段により公開された共有デバイスの情報の少なくとも何れかの情報に基づいて、上記保持手段内の情報を更新するデバイス管理手段とを備えることを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

第 2 の発明は、ネットワークを介して他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された複数の端末装置を含むシステム内の少なくとも 1 つの端末装置であって、少なくとも他装置からの要求に基づいて、共有デバイスによって得

られた情報を当該要求元へ提供するサーバ手段と、上記システム内に存在する共有デバイスの情報が保持されている保持手段内の情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント手段と、上記サーバ手段と上記クライアント手段の間での情報交換を行なうための通信手段と、自装置の共有デバイスの機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有デバイスの情報を上記システム内で公開するサーバ拡張手段と、上記保持手段内の情報に基づいて、上記通信手段を介して上記サーバ手段へ自装置の共有デバイスの使用を要求するクライアント拡張手段と、他の装置から公開された当該装置の共有デバイスの情報、及び上記サーバ拡張手段により公開された共有デバイスの情報の少なくとも何れかの情報の変化に基づいて、上記保持手段内の情報の更新を要求するデバイス管理手段とを備えることを特徴とする。

【 0 0 0 7 】

第 3 の発明は、上記第 1 又は 2 の発明において、上記サーバ拡張手段は、自装置の共有デバイスの状態が変化した時、自装置の立ち上がり時、及び自装置の起動終了時の何れかに、自装置の共有デバイスの情報、及びその変化の情報の少なくとも何れかを公開することを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

第 4 の発明は、上記第 1 又は 2 の発明において、上記保持手段内の情報に基づく画面を表示する表示手段を備えることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

第 5 の発明は、上記第 1 又は 2 の発明において、上記システム内での有効な端末装置の情報を管理する端末管理手段を備えることを特徴とする。

【 0 0 1 0 】

第 6 の発明は、上記第 5 の発明において、上記有効な端末装置は、ドメイン内でアクセス権を有する装置を含むことを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

第 7 の発明は、少なくとも他の装置から使用可能に機能する共有デバイスが接続された端末装置を含む複数の端末装置が、ネットワークを介して通信可能に接続されてなるネットワークシステムであって、上記複数の端末装置のうち少なく

とも1つの機器は、請求項1～6の何れかに記載の端末装置の機能を有することを特徴とする。

【0012】

第8の発明は、他の装置から使用可能に機能する共有機器が接続された端末装置を含む複数の端末装置が、ネットワークを介して通信可能に接続されてなるネットワークシステムにおいて、共有機器を管理するための機器管理方法であって、上記システム内に存在する共有機器の情報を保持する保持ステップと、少なくとも他装置からの要求に基づいて、自装置の共有機器によって得られた情報を当該要求元へ提供するサーバステップと、上記保持ステップにより保持された情報に基づいて、少なくとも他装置に対して当該装置の共有機器の使用を要求するクライアントステップと、上記サーバステップと上記クライアントステップの間での情報交換を行なうための通信ステップと、自装置の共有機器の機能を制御すると共に、当該制御に基づく自装置の共有機器の情報を上記システム内で公開するサーバ拡張ステップと、上記保持ステップにより保持された情報に基づいて、上記通信ステップを介して上記サーバステップに対し、自装置の共有機器の使用を要求するクライアント拡張ステップと、他の装置から公開された当該装置の共有機器の情報、及び上記サーバ拡張ステップにより公開された共有機器の情報の少なくとも何れかの情報に基づいて、上記保持ステップにより保持された情報を更新するデバイス管理ステップとを含むことを特徴とする。

【0013】

第9の発明は、上記第8の発明において、上記サーバ拡張ステップは、自装置の共有機器の状態が変化した時、自装置の立ち上がり時、及び自装置の起動終了時の何れかに、自装置の共有機器の情報を公開するステップを含むことを特徴とする。

【0014】

第10の発明は、上記第8の発明において、上記保持ステップにより保持された情報に基づく画面を表示する表示ステップを含むことを特徴とする。

【0015】

第11の発明は、上記第8の発明において、上記システム内での有効な端末装

置の情報を管理する端末管理ステップを含むことを特徴とする。

【0016】

第12の発明は、上記第11の発明において、上記有効な端末装置は、ドメイン内でアクセス権を有する装置を含むことを特徴とする。

【0017】

第13の発明は、請求項1～6の何れかに記載の端末装置の機能、又は請求項7記載のネットワークシステムの機能を実施するための処理プログラムを、コンピュータが読出可能に格納した記憶媒体であることを特徴とする。

【0018】

第14の発明は、請求項8～12の何れかに記載の機器管理方法の処理ステップを、コンピュータが読出可能に格納した記憶媒体であることを特徴とする。

【0019】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態について図面を用いて説明する。

【0020】

本発明は、例えば、図1に示すようなネットワークシステム100に適用される。

このネットワークシステム100は、上記図1に示すように、複数の端末装置（ホスト端末装置）110a, 110b, 110c, 120が、ネットワーク130を介して互いに通信可能なように接続された構成としている。

【0021】

ホスト端末装置110a, 110b, 110cはそれぞれ同様の構成としており、ネットワークサーバ機能111と、ネットワーククライアント機能112とを有する構成としている。そして、ネットワークサーバ機能111に対しては、プリンタ、画像入力装置、ディスクドライブ等の様々なリソース113（1）, …, 113（n）が接続されている。

尚、ここでいう「リソース」とは、ホスト端末装置にローカルに接続されているデバイスを示す。

【0022】

ホスト端末装置 1 2 0 は、ネットワーク 1 3 0 内でのアドミニストレータ（管理）機能 1 2 1 と、ネットワーククライアント機能 1 2 2 とを有する構成として
いる。

管理機能 1 2 1 は、ネットワークサーバ機能 1 1 1 と同様の機能と、各ホスト
端末装置の管理機能とを兼ね備えた機能であり、ネットワーククライアント機能
1 2 2 は、ネットワーククライアント機能 1 1 2 と同様の機能である。

【0 0 2 3】

上述のように、本実施の形態でのネットワークシステム 1 0 0 では、特に、ホ
スト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 のそれぞれにおいて、ネッ
トワークサーバ機能 1 1 1（サーバモジュール）と、ネットワーククライアント
機能 1 1 2（クライアントモジュール）との両者が存在する構成としている。そ
して、それらの両者の機能は、ネットワーク 1 3 0 上の別々のホスト端末装置に
存在する場合であっても、同一のホスト端末装置内に存在する場合であっても、
その違いを意識することなく、同様に動作する構成としている。

以下、本実施の形態でのネットワークシステム 1 0 0 について、具体的に説明
する。

【0 0 2 4】

[ホスト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 の内部構成]

ホスト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 はそれぞれ同様の内部
構成としている。

ここでは、説明の簡単のために、代表としてホスト端末装置 1 1 0 a の構成に
ついて具体的に説明し、他のホスト端末装置 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 につい
てはホスト端末装置 1 1 0 a と同様の構成であるため、その詳細な説明は省略す
る。

【0 0 2 5】

ホスト端末装置 1 1 0 a は、自装置に対してローカルに接続されているデバイ
ス（リソース）の情報を公開可能であり、例えば、図 2 に示すように、装置全体
の動作制御を司る CPU（Central Processing Unit）2 と、CPU 2 での動作制御のための各種処理プログラムや各種データ等が格

納されるプログラムメモリ（PMEM）3と、ネットワーク130上の他の装置7との通信動作等を制御する通信制御部4と、データファイル用の記憶媒体としてのフロッピーディスク（FD）9やハードディスク（HD）10へのデータの記憶動作を制御する外部記憶制御部8と、操作部としてのキーボード12やマウス13からの入力動作を制御する入力制御部11と、表示器としてのCRT16の表示データが記憶されるビデオイメージメモリ（VRAM）14と、CRT16での表示動作を制御する表示出力制御部15と、プリンタ18でのプリントアウト動作を制御するプリンタ制御部17と、画像入力機器1Bでの画像入力動作を制御する画像入力機器制御部1Aと、プリンタ制御部17及び画像入力機器制御部1Aを制御する外部機器制御部19とを備えており、これらの各構成部は、システムバス1を介して互いにデータ授受できるように接続されている。

【0026】

PMEM3には、後述する本実施の形態での最も特徴とする動作を含め、各種動作を実施するための処理プログラムが格納される。

具体的には例えば、当該処理プログラムは、ハードディスク10に予め格納されており、CPU2は、当該処理プログラムをハードディスク10から適宜選択して読み出してPMEM3上へ展開し、そして実行する。これにより、本実施の形態での最も特徴とする動作を含めた各種動作が実施される。

【0027】

また、PMEM3は、テキストメモリとしても機能する。したがって、PMEM3には、例えば、キーボード12から入力されたデータがコード情報として格納される。

【0028】

通信制御部4は、通信ポート5に於ける入出力データの制御を行う。これにより、通信ポート5から出力されたデータは、通信回線6を経由して、ネットワーク130上の他の装置の通信ポートに伝えられる。

【0029】

また、通信制御部4は、ネットワーク130上の共有リソース（プリンタや画像入力力装置等）とのデータのやり取りのための制御も行なう。

【 0 0 3 0 】

尚、ここでは、通信制御部 4、通信ポート 5、及び通信回線 6 により、LAN 等のネットワーク 1 3 0 上の他の装置とネットワーク通信する構成としているが、これに限られることはなく、例えば、一般の公衆回線による通信であっても、本発明が適応されることは言うまでもない。

【 0 0 3 1 】

入力制御部 1 1 は、キーボード 1 2 及びマウス 1 3 におけるユーザからの操作情報（システムの動作指令等）を CPU 2 へと伝える。

【 0 0 3 2 】

マウス 1 3 は、CRT 1 6 上で画像情報を加工指示等するためのポインティング・デバイス（PD）としての操作部である。このマウス 1 3 により、ユーザは、例えば、CRT 1 6 の表示画面上のカーソルを X、Y 方向に任意に移動させ、コマンドメニュー上のコマンド・アイコンを選択することで、所望する処理の指示が行なえる他、編集対象画像の指示や描画位置の指示等も行なえる。

【 0 0 3 3 】

VRAM 1 4 には、表示出力制御部 1 5 の制御により CRT 1 6 に表示されるデータが、ビットマップデータとして展開される。

【 0 0 3 4 】

外部機器制御部 1 9 は、例えば、ネットワーク 1 3 0 上の他の装置からの指示に従って、プリンタ制御部 1 7 及び画像入力機器制御部 1 A を制御する。これにより、プリンタ 1 8 及び画像入力機器 1 B は、上記他の装置からの指示に従って動作することになる。

【 0 0 3 5 】

[ネットワークサーバ機能 1 1 1 及びネットワーククライアント機能 1 1 2 のモジュール構成]

上述したように、ホスト端末装置 1 1 0 a、1 1 0 b、1 1 0 c、1 2 0 はそれぞれ、ネットワークサーバ機能 1 1 1 及びネットワーククライアント機能 1 1 2 を有する構成としている（上記図 1 参照）。また、ネットワークサーバ機能 1 1 1 及びネットワーククライアント機能 1 1 2 の両者は、ネットワーク 1 3 0 上

の別々のホスト端末装置に存在する場合であっても、同一のホスト端末装置内に存在する場合であっても、その違いを意識することなく、同様に動作する構成としている。

【0036】

図3は、ホスト端末装置110a, 110b, 110c, 120の任意のホスト端末装置（クライアント側としてのホスト端末装置、以下、「クライアント側ホスト端末装置A」と言う）のネットワーククライアント機能112が、ネットワーク130を介して、他のホスト端末装置（サーバ側としてのホスト端末装置、以下、「サーバ側ホスト端末装置B」と言う）のネットワークサーバ機能111を利用して、ホスト端末装置Bに接続されている共有リソースを使用する場合の、ネットワークサーバ機能111及びネットワーククライアント機能112を構成するモジュール間の関係を示したものである。

【0037】

ネットワーククライアント機能112は、ネットワーク130を介して他の装置から所望のデータをやりとりするための機能であり、上記図3に示すように、クライアントメッセージマネージャ21、クライアント拡張機能マネージャ22、クライアント拡張機能追加／削除管理モジュール23、リソース要求モジュール31, ..., 3N、及びライセンス情報確認モジュール41を含むモジュール群からなる。

【0038】

リソース要求モジュール31, ..., 3Nは、ネットワーク130上で共有設定されているリソース（共有リソース）1, ..., Nの情報を獲得し、そのリソースを自端末装置（クライアント側ホスト端末装置A）で使用するためのモジュールである。

【0039】

ライセンス確認モジュール41は、自端末装置（クライアント側ホスト端末装置A）が、ネットワーク130上で種々のサービスを使用するために管理サーバ（上記図1に示したホスト端末装置120、以下、「管理サーバ120」と言う）に対してログオンする際に、その権利があるか否かのやりとりを行うためのモジュール

ルである。

【0040】

上述のリソース要求モジュール31, . . . , 3N及びライセンス確認モジュールは、クライアント拡張機能モジュールであり、クライアント拡張マネージャ22に対して、或る規定されたインターフェースを提供することによって、自端末装置（クライアント側端末装置A）に対して任意の機能を追加することができる。

【0041】

クライアント拡張機能追加／削除管理モジュール23は、自端末装置（クライアント側端末装置A）で新規に使用したいリソースが増減したときに、リソース要求モジュール31, . . . , 3Nを調整する。

また、クライアント拡張機能追加／削除管理モジュール23は、クライアント拡張機能マネージャ22と連動して、個々のクライアント拡張機能モジュール31, . . . , 3N, 41の追加や削除管理を行う。

【0042】

クライアントメッセージマネージャ21は、クライアント拡張機能モジュール31, . . . , 3N, 41で生成された要求メッセージをネットワーク130上へ流す処理（特定のホスト端末装置に対して、或いは、ネットワーク130全体に対してブロードキャストする処理）を行う。

また、クライアントメッセージマネージャ21は、他のホスト端末装置からのメッセージを受け取って、それを処理すべきか否かを判断し、その判断の結果、処理すべきである場合に、クライアント拡張機能モジュール31, . . . , 3N, 41のうち適切なクライアント拡張機能モジュールに対して当該メッセージに対応する処理を依頼する。

【0043】

クライアント拡張マネージャ22は、ネットワーククライアント機能112によって得られた情報を受け取り、汎用的なインターフェースを用いてクライアント拡張機能モジュール31, . . . , 3N, 41へ当該情報に対応した処理を依頼する。

【 0 0 4 4 】

一方、ネットワークサーバ機能 1 1 1 は、ネットワーク 1 3 0 上の所望のクライアント（ここでは、クライアント側ホスト端末装置 A）からの要求情報を受け取るための機能であり、上記図 3 に示すように、サーバメッセージマネージャ 5 1、サーバ拡張機能マネージャ 5 2、サーバ拡張機能追加／削除管理モジュール 5 3、及びリソース管理モジュール 6 1、・・・、6 N を含むモジュール群からなる。

尚、上記図 3 中のネットワーク全体情報管理モジュール 7 1、及びライセンス情報管理モジュール 7 2 については後述する。

【 0 0 4 5 】

リソース管理モジュール 6 1、・・・、6 N は、自端末装置（サーバ側ホスト端末装置 B）に対してローカルに接続されている複数のリソースの情報を獲得し、それらのリソースを制御して使用可能とするためのモジュール（サーバ拡張モジュール）である。

例えば、リソース管理モジュール 6 1 は、ローカルに接続されている複数のリソース 8 0、・・・、8 N（リソース 1）の情報を獲得し、それらを制御して使用可能とする。

【 0 0 4 6 】

サーバメッセージマネージャ 5 1 は、リソース管理モジュール 6 1、・・・、6 N（サーバ拡張モジュール）で生成された通知メッセージをネットワーク 1 3 0 上に流す処理（特定のホスト端末装置に対して、或いは、ネットワーク 1 3 0 全体に対してブロードキャストする処理）を行う。

また、サーバメッセージマネージャ 5 1 は、他のホスト端末装置からのメッセージを受け取って、それを処理すべきか否かを判断し、その判断の結果、処理すべきである場合に、リソース管理モジュール 6 1、・・・、6 N（サーバ拡張モジュール）のうちの適切なサーバ拡張モジュールに対して当該メッセージに対応する処理を依頼する。

【 0 0 4 7 】

サーバ拡張マネージャ 5 2 は、ネットワークサーバ機能 1 1 1 によって得られ

た情報を受け取り、汎用的なインターフェースを用いてリソース管理モジュール 61, . . . , 6N (サーバ拡張モジュール) へ当該情報に対応した処理を依頼する。

【0048】

サーバ拡張機能追加／削除関知モジュール 53 は、サーバ拡張機能マネージャ 52 と連動して、個々のリソース管理モジュール 61, . . . , 6N (サーバ拡張機能モジュール) の追加や削除管理を行う。

【0049】

ここで、上記図 3 に示すネットワーク全体情報管理モジュール 71 及びライセンス管理モジュール 72 は、管理サーバ 120 (管理機能を有するホスト端末装置) のみに存在するモジュール (サーバ拡張機能) である。

すなわち、管理サーバ 120 は、ホスト端末装置 110a, 110b, 110c と同様の構成 (ネットワークサーバ機能 111 及びネットワーククライアント機能 112 を有する構成) としているが、この構成に加えて、ネットワーク全体情報管理モジュール 71 及びライセンス管理モジュール 72 を有する構成としている。

【0050】

ネットワーク全体情報管理モジュール 71 は、管理サーバ 120 に対してログオンしているホスト端末装置全体の共有リソース情報 (それぞれのホスト端末装置に接続されている全ての共有リソースの情報) を管理するためのモジュールである。

【0051】

ライセンス管理モジュール 72 は、ネットワーククライアント機能 112 を有するホスト端末装置が、ネットワーク 130 上で種々のサービスを使用するために管理サーバ 120 に対してログオンする際に、その権利があるか否かのやりとりを行うためのモジュールである。

【0052】

図 4 は、同一ホスト端末装置内における、ネットワークサーバ機能 111 及びネットワーククライアント機能 112 を構成するモジュール間の関係を示したも

のである。

【0 0 5 3】

上記図 4 に示すように、ネットワーククライアント機能 1 1 2 とネットワークサーバ機能 1 1 1 は、サーバ／クライアント間通信モジュール 8 1 を介して互いに通信可能なように構成されている。

このように、サーバ／クライアント間通信モジュール 8 1 を、ネットワークサーバ機能 1 1 1 と、ネットワーククライアント機能 1 1 2 との間に挟むことによって、それぞれの機能を構成する各モジュールは、ネットワーク 1 3 0 を介して他のホスト端末装置内のモジュールとデータのやりとりをしているのか、或いは同一ホスト端末装置内のモジュール（同一ローカルホスト内のモジュール）とデータのやりとりをしているのかを意識することなく、同一のインターフェースで当該データに対する処理を実行することができる。

【0 0 5 4】

また、サーバ／クライアント間通信モジュール 8 1 は、同一ホスト端末装置内のネットワークサーバ機能 1 1 1 とネットワーククライアント機能 1 1 2 の間で共有しておくべき情報を保持するためのデータ領域 8 2 を有する。

データ領域 8 2 には、ネットワークサーバ機能 1 1 1 によって取得された、自端末装置にローカルに接続されているリソースの情報や、他のホスト端末装置に関する情報等がセットされる。これにより、例えば、ネットワーククライアント機能 1 1 2 のクライアント拡張モジュール 3 1, . . . , 3 N は、データ領域 8 2 内のリソース情報を効率よく参照することができ、所望するリソースに対して要求を出すことができる。

【0 0 5 5】

[ホスト端末装置のローカル管理情報の構造]

図 5 は、ホスト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 のローカル管理情報の構造を示したものである。

ローカル管理情報は、自端末装置の情報、及び自端末装置が管理しているリソースに関する情報を含み、上記図 4 に示したデータ領域 8 2 に格納される情報である。このようなローカル管理情報を基に、それぞれのホスト端末装置 1 1 0 a

， 1 1 0 b， 1 1 0 c， 1 2 0 は、他のホスト端末装置或いは管理サーバ 1 2 0 から、自端末装置の情報を要求された場合の当該要求に対する応答データを生成する。

【 0 0 5 6 】

具体的には、ローカル管理情報は、上記図 5 に示すように、情報 2 0 1 ～ 2 0 9 を含んでいる。

情報 2 0 1 は、ローカル管理情報を構成する情報項目（管理情報項目）の数の情報である。

情報 2 0 2 は、自端末装置のネットワークアドレスの情報である。このアドレス情報 2 0 2 を元に、他のホスト端末装置は、アクセス要求を発行してくる。

情報 2 0 3 は、現在ログオンしているユーザの識別情報（ログオンユーザ情報）である。

情報 2 0 4 は、セキュリティ管理情報であり、自端末装置に接続されている個々の共有リソースに対してのアクセス権を管理する情報を含んでいる。

情報 2 0 5 は、自端末装置のサーバ拡張機能（リソース管理モジュール 6 1，・・・， 6 N）の情報であり、自端末装置がどのようなサーバ拡張機能を有しているか、という情報を含んでいる。

情報 2 0 6 は、自端末装置の管理下にあるリソースの管理情報（リソース情報）である。このリソース情報 2 0 6 の詳細は後述する。

情報 2 0 7 は、自端末装置のクライアント拡張機能（リソース要求モジュール 3 1，・・・， 3 N）の情報であり、自端末装置がどのようなクライアント拡張機能を有しているか、という情報を含んでいる。

情報 2 0 8 は、管理機能を持つ端末装置（管理サーバ 1 2 0）に対してログオン要求を発行し、当該要求が管理サーバ 1 2 0 から受理（許可）されたときに与えられるライセンス情報である。このライセンス情報 2 9 8 は、管理サーバ 1 2 0 から要求があった場合の応答に用いられることになる。

情報 2 0 9 は、その他の自端末装置の管理情報である。

【 0 0 5 7 】

上述したリソース情報 2 0 6 は、プリンタ毎、スキャナ毎といったように、リ

ソースの種別毎に共通設定情報管理領域 82 にて管理される情報である。

【0058】

具体的には、図 6 に示すように、ある種類のリソースに関するリソース情報 206 は、情報 211～222 を含んでいる。

情報 211 は、リソース情報 206 に管理している情報の項目数の情報である。

情報 212 は、リソース情報 206 に管理しているリソースの種別（”プリンタ”、”スキャナ”等）を示す情報である。

情報 213 は、リソース情報 206 におけるその他の管理情報である。

【0059】

情報 214（1）～情報 214（N）は、個々のリソースに関する情報であり、それぞれ同様の構造としている。

例えば、情報 214（1）は、リソース（1）に関する情報であり、情報 215～222 を含んでいる。

【0060】

情報 215 は、リソース（1）の名称情報である。

情報 216 は、リソース（1）がネットワーク 130 で共有設定されている場合（リソース（1）が共有リソースとして接続されている場合）の、その共有名称情報である。

情報 217 は、リソース（1）がネットワーク 130 で共有設定されている場合の、共有セキュリティ情報である。このセキュリティ情報 217 を元にして、リソース（1）を誰に対して公開するかが決定される。

情報 218 は、リソース（1）を動作させるためのドライバの情報である。

情報 219 は、リソース（1）のカラー能力の情報である。例えば、リソース（1）がカラープリンタであるか否かを示す情報である。

情報 220 は、リソース（1）の拡張情報である。例えば、リソース（1）がスキャナであり、そのスキャナにオートフィーダが接続されている場合や、リソース（1）がプリンタであり、そのプリンタにスタッカが接続されている場合等の、リソース（1）に対する拡張機能（オートフィーダ機能、スタッカ機能等）

の情報である。

情報 2 2 1 は、リソース (1) のステータス情報であり、電源の ON / OFF 状態、処理中のジョブ数、リソース (1) のエラー状態等の情報を含んでいる。

情報 2 2 2 は、リソース (1) のその他のリソース情報である。

【0 0 6 1】

尚、ネットワーク共有名称情報 2 1 6 において、対象リソース (x) が共有設定されていない場合、ネットワーク共有名称情報 2 1 6 は、NULL (" 0 0 ") の状態となる。この場合、他のホスト端末装置には、対象リソース (x) の情報は公開されない。

【0 0 6 2】

[ネットワーク 1 3 0 内の全共有リソース管理情報の構造]

図 7 は、上記図 5 に示したローカル管理情報のリソース情報 2 0 6 等を、全てのホスト端末装置について管理するための情報 (全共有リソース管理情報) の構造の一例を示したものである。

【0 0 6 3】

共有リソース管理情報は、ネットワーク 1 3 0 内の個々のホスト端末装置が、どのような共有リソースを持っているかを管理するための情報であり、共有設定情報管理領域 8 2 にて管理される。

ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置 (ここでは、管理サーバ 1 2 0) が存在する場合、当該ホスト端末装置に収集され保持される。これにより、個々のホスト端末装置は、必要に応じて、他のホスト端末装置に関する情報を、上記ホスト端末装置 (管理サーバ 1 2 0) で保持されている共有リソース管理情報から取得することになる。

また、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置 (ここでは、管理サーバ 1 2 0) が存在しない場合、共有リソース管理情報は、個々のホスト端末装置で収集され保持される。

【0 0 6 4】

上述のような全共有リソース管理情報は、上記図 7 に示すように、ネットワーク 1 3 0 内で認識されているホスト端末装置の数の情報 2 3 1 と、それらのホス

ト端末装置に対応したアクセス情報 232 (1), ..., 232 (N) とを含んでいる。

【0065】

アクセス情報 232 (1), ..., 232 (N) はそれぞれ同様の構造としており、例えば、あるホスト端末装置 (1) のアクセス情報 232 (1) は、情報 233 ~ 情報 237 (N) を含んでいる。

【0066】

情報 233 は、ホスト端末装置 (1) のネットワーク 130 上のアドレス情報である。このアドレス情報を元に、他のホスト端末装置は、必要な情報のやり取りを行う。

情報 234 は、現在ホスト端末装置 (1) にログオンしているユーザの情報である。

情報 235 は、ホスト端末装置 (1) のその他の識別情報である。この識別情報 235 には、ホスト端末装置 (1) の種別や、ホスト端末装置 (1) で使用されているオペレーティングシステムの情報等を含む。

情報 236 は、ホスト端末装置 (1) に接続されている (ホスト端末装置 (1) の管理下にある) 共有リソースの数の情報である。

情報 237 (1) ~ 237 (N) は、情報 236 により示される共有リソース (1) ~ (N) に対応した個々の情報 (共有リソース管理情報) である。例えば、情報 237 (1) は、共有リソース (1) の管理情報である。したがって、これらの情報 265 (1) ~ 265 (N) を元に、他のホスト端末装置は、所望の共有リソースに対してアクセス要求を発行する。

【0067】

[ホスト端末装置間でやりとりされるデータの構造]

図 8 は、ホスト端末装置 110 a, 110 b, 110 c, 120 の任意のホスト端末装置 (クライアント側ホスト端末装置) が、ネットワーク 130 を介して、他のホスト端末装置 (サーバ側ホスト端末装置) に接続されている共有リソースを使用する場合の、クライアント側ホスト端末装置とサーバ側ホスト端末装置の間でやりとりされるデータの構造の一例を示したものである。

【 0 0 6 8 】

本データは、上記図 8 に示すように、情報 2 4 1 ~ 2 4 6 を含むヘッダ情報 2 4 0 と、情報 2 5 1 ~ 2 5 6 を含む送信実データ 2 5 0 と、情報 2 6 1 ~ 2 6 4 を含む送信元データ 2 6 0 とを含んでいる。

【 0 0 6 9 】

ヘッダ情報 2 4 0 において、情報 2 4 1 は、本データを受信側で識別するための情報である。

情報 2 4 2 は、本データのバージョン情報である。

情報 2 4 3 は、本データの属性情報である。ここでの属性情報とは、問い合わせ、応答、通知、要求等の本データのデータ種別を表す情報を含む情報である。

情報 2 4 4 は、送信実データ 2 5 0 のオフセット情報である。具体的には、送信実データ 2 5 0 の情報 2 5 2 の先頭アドレス情報である。

情報 2 4 5 は、本データのその他の管理情報である。

【 0 0 7 0 】

送信実データ 2 5 0 において、情報 2 5 1 は、ネットワークサーバ機能 1 1 1 を有する送信先端末（サーバ側ホスト端末装置）のネットワーク情報である。

情報 2 5 2 は、サーバ側ホスト端末装置において、要求を出したいサーバ拡張モジュール 6 1, . . . , 6 N の何れか（上記図 4 参照）を識別するための情報である。

情報 2 5 3 は、情報 2 5 2 により示されるサーバ拡張モジュールに対して実際に要求する機能を示す情報である。

情報 2 5 4 は、サーバ側ホスト端末装置に対してアクセスを求める際に要求されるパスワード等のセキュリティ情報である。

情報 2 5 5 は、情報 2 5 2 により示されるサーバ拡張モジュールに対して渡されるパラメータ等のデータ本体である。

情報 2 5 6 は、送信実データ 2 5 0 内の各情報を管理するための、その他の管理情報である。

【 0 0 7 1 】

送信元データ 2 6 0 において、情報 2 6 1 は、本データの送信元ホスト端末装

置を示すネットワーク情報である。

情報 2 6 2 は、本データの送信元ホスト端末装置に現在ログオンしているユーザの情報である。

情報 2 6 3 は、本データの要求がどれだけの時間で、接続断されるかを示すタイムアウト設定情報である。

情報 2 6 4 は、送信元データ 2 6 0 内の各情報を管理するための、その他の管理情報である。

【 0 0 7 2 】

[ホスト端末装置の表示画面]

図 9 は、ネットワーク 1 3 0 上のホスト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 の CRT 1 6 において、ウィンドウによる画面 2 7 0 が表示された状態（リソース状態）を示したものである。

【 0 0 7 3 】

本ウィンドウ画面 2 7 0 に於いては、上記図 7 に示したような共有リソース管理情報に基づき、個々のアイコンや、その下の文字情報が表示される。

【 0 0 7 4 】

上記図 9 に示すように、本ウィンドウ画面 2 7 0 には、自端末装置を表すアイコン 2 7 1 と、自端末装置にローカルに接続されている使用可能なリソース群 2 7 2 が表示される。

【 0 0 7 5 】

リソース群 2 7 2 は、例えば、スキャナやプリンタ等のデバイス（リソース）が、それぞれの属性に応じて適切なアイコンが割り付けられて表示される。また、これらのリソースの中で、ネットワーク 1 3 0 上で共有設定されているリソース（共有リソース）については、共有リソースであることを示すマーク、例えば、「手」のマークが表示される。すなわち、このマークが付加されているリソースは、ネットワーク 1 3 0 上の他のホスト端末装置から使用することが可能である。

【 0 0 7 6 】

また、本ウィンドウ画面 2 7 0 には、ネットワークグループを示すアイコン 2

73が表示されると共に、そのネットワークグループ内に存在するホスト端末装置を示すアイコン274、275と、それらのホスト端末装置にローカルに接続されている使用可能なリソース群276が表示される。

ここでは、ホスト端末装置274、275には、共有リソースが接続されていないものとしているので、リソース群276内のリソースを示すアイコンの下には、上述した「手」等の共有リソースを示すマークは表示されていない。

【0077】

[ホスト端末装置の立ち上がり時の動作]

図10は、ホスト端末装置110a、110b、110c、120の立ち上がり時の動作を示したものである。このときの動作は、ライセンス情報確認モジュール41によって実施される。

【0078】

まず、ネットワーク130上における管理機能を有する端末装置（管理サーバ120）の存在を検出し（ステップS301）、その検出の結果により、管理サーバ120が存在する否かを判別する（ステップS302）。

ここでの管理サーバ120の検出及び存在判別の方法としては、例えば、管理サーバ120の存在の問い合わせを行うメッセージ（上記図8のデータ構造に従った問い合わせのメッセージ）を、ネットワーク130全体に対してブロードキャストし、そのブロードキャストに対して、管理サーバ120からの応答（上記図8のデータ構造に従った応答のメッセージ）があるか否かを判別する方法がある。

【0079】

ステップS302の判別の結果、ネットワーク130上に管理サーバ120が存在しない場合には、これ以上本処理を継続できないので、本処理終了となる。

【0080】

ステップS302の判別の結果、ネットワーク130上に管理サーバ120が存在する場合、その管理サーバ120に対して、ログオンを許可するためのライセンスの確認要求を行う（ステップS303）。

【0081】

ステップ S 3 0 3 のライセンス確認要求を発行した結果、管理サーバ 1 2 0 側において、ライセンス管理モジュール 7 2 により、当該確認要求が正しいホスト端末装置（クライアント側）からの要求であると判断され、且つ、他のホスト端末装置（サーバ側）のアクセス許容数に空きがあると判断されたか否か、すなわち上記ライセンス確認要求が受理されたか否かを判別する（ステップ S 3 0 4）。

【 0 0 8 2 】

ステップ S 3 0 4 の判別の結果、上記ライセンス確認要求が管理サーバ 1 2 0 側で拒否された場合には、これ以上本処理を継続できないので、本処理終了となる。

【 0 0 8 3 】

ステップ S 3 0 4 の判別の結果、上記ライセンス確認要求が管理サーバ 1 2 0 側で受理された場合、管理サーバ 1 2 0 から上記確認要求に対するライセンス情報を受け取り（ステップ S 3 0 5）、以降のステップ S 2 0 6 からの処理を実行する。

【 0 0 8 4 】

すなわち、先ず、ネットワーク 1 3 0 上の他のホスト端末装置に対して、自端末装置が加わったことを、ブロードキャストを実行することによって通知する（ステップ S 3 0 6）。

【 0 0 8 5 】

次に、自端末装置に接続されている共有リソースの情報を取得する（ステップ S 3 0 7）。

【 0 0 8 6 】

次に、ステップ S 3 0 7 にて取得した共有リソース情報、管理サーバ 1 2 0 のアクセス情報（ネットワーク情報）、及びステップ S 2 0 5 にて取得したライセンス情報等を、上記図 5 に示したようなローカル管理情報として、ネットワーククライアント機能 1 1 2 とネットワークサーバ機能 1 1 の間に設けられたデータ領域 8 2（共通設定情報格納領域、上記図 4 参照）へセットする（ステップ S 3 0 8）。

【 0 0 8 7 】

次に、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 1 2 0）が存在するか否かを判別して、そのホスト端末装置（管理サーバ 1 2 0）に対して、ステップ S 3 0 8 にて共通設定情報格納領域 8 2 内へセットした情報（リソース情報）を与えるべきか否かを判別する（ステップ S 3 0 9）。

【 0 0 8 8 】

ステップ S 3 0 9 の判別の結果、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 が存在し、そのモジュールを有するホスト端末装置（管理サーバ 1 2 0）に対して、共通設定情報格納領域 8 2 内のローカル管理情報（リソース情報）を与える場合、その情報を上記ホスト端末装置（管理サーバ 1 2 0）に対してアップロードする（ステップ S 3 1 0）。これにより、ネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置（管理サーバ 1 2 0）では、ネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 によって、上記図 7 に示したような全共有リソース管理情報が管理される。その後、本処理終了となる。

【 0 0 8 9 】

ステップ S 3 0 9 の判別の結果、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 が存在しない場合、上記図 7 に示したような全共有リソース管理情報は個々のホスト端末装置内で保持されており、ステップ S 3 1 0 の処理を実行する必要がないため、そのまま本処理終了となる。

【 0 0 9 0 】

[他のホスト端末装置の管理下の共有リソースへのアクセス動作]

図 1 1 は、ネットワーク 1 3 0 上のホスト端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 の任意のホスト端末装置（クライアント側ホスト端末装置）が、ネットワーク 1 3 0 を介して、他のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に接続されている共有リソースを使用する場合の、クライアント側ホスト端末装置の動作を示したものである。このときの動作は、クライアント側ホスト端末装置のネットワーククライアント機能 1 1 2 が、サーバ側ホスト端末装置のネットワークサーバ機能 1 1 1 と通信することで実施される。

【0091】

先ず、ターゲットとなるホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）のネットワークアドレス、及びその管理下にある所望の共有リソースのアクセス情報を取得する（ステップ S 3 2 1）。

具体的には例えば、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 1 2 0）が存在する場合には、そのホスト端末装置内で保持されている共有リソース管理情報（上記図 7 参照）から、ターゲットとなるホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）の情報を取得する。また、ネットワーク 1 3 0 内にネットワーク全体情報管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置が存在しない場合には、自端末装置内で保持している共有リソース管理情報（上記図 7 参照）から、ターゲットとなるホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）の情報を取得する。

【0092】

次に、ステップ S 3 2 2 にて取得した情報に基づいて、サーバ側ホスト端末装置の所望する共有リソースへアクセスして、そのセキュリティ情報を取得する（ステップ S 3 2 2）。

【0093】

そして、ステップ S 3 2 1 にて取得したアクセス情報、及びステップ S 3 2 2 にて取得したセキュリティ情報の内容を確認し、自端末装置（クライアント側ホスト端末装置）が、相手先（サーバ側ホスト端末装置）の所望する共有リソースに対してアクセスする権利があるか否かを判別する（ステップ S 3 2 3）。

【0094】

ステップ S 3 2 3 の判別の結果、アクセス権がない場合、アクセス処理中止として、本処理を終了する。

【0095】

ステップ S 3 2 3 の判別の結果、アクセス権がある場合、自端末装置（クライアント側ホスト端末装置）が、アクセス先のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に対して、以前にアクセスしたことがあるか否かを判別する（ステップ S 3 2 4）。

【0096】

ステップS324の判別の結果、以前にアクセスしたことがある場合、自端末装置（クライアント側ホスト端末装置）のローカル管理情報（上記図5参照）を参照することで、そのときのログオン情報を、アクセス先のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に対する今回のログオン情報として再設定する（ステップS325）。

【0097】

ステップS284の判別の結果、以前にアクセスしたことがない場合、すなわち今回初めてアクセスする場合、新規のログオン情報を設定する（ステップS286）。具体的には例えば、現在ログオン中のユーザに対して、アクセスパスワードの入力を促す等の処理を行うことで取得したログオン情報を、アクセス先のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に対する今回のログオン情報として設定する。

【0098】

ステップS285又はステップS286の処理後、当該処理によって設定したログオン情報と共に、アクセス先のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に対する要求データを、上記図8に示したデータ構造に従って生成する（ステップS287）。

【0099】

そして、ステップS287にて生成した要求データを、アクセス先のホスト端末装置（サーバ側ホスト端末装置）に対して送信し、その結果返送されてくる応答データを受け取る（ステップS288）。

その後、本処理終了となる。

【0100】

[ネットワーク内の共有リソース管理情報の更新動作]

図12は、ネットワーク130内の共有リソース管理情報（上記図7参照）の更新動作を示したものである。

【0101】

ここで、上述したように、ネットワーク130内にネットワーク全体情報管理

モジュール 71 を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 120）が存在する場合、ネットワーク全体情報管理モジュール 71 によって共有リソース管理情報が保持される。

一方、ネットワーク 130 内にネットワーク全体情報管理モジュール 71 を有するホスト端末装置が存在しない場合、個々のホスト端末装置で共有リソース管理情報が保持される。

【0102】

上述のような共有リソース管理情報の更新処理は、ライアント拡張機能追加／削除管理モジュール 23 及びサーバ拡張機能追加／削除管理モジュール 53 によって、ホスト端末装置が起動状態にあるときに常に実行されており、ネットワーク 130 上の他のホスト端末装置からメッセージが届くのを監視している。

【0103】

先ず、他のホスト端末装置からのブロードキャストによるメッセージの待ち状態となっている（ステップ S331）。

このステップ S331 にて、メッセージを受信した場合に、次のステップ S332 からの処理を実行する。

【0104】

他の端末装置からのメッセージを受信すると、そのメッセージの内容を確認する（ステップ S332）。

【0105】

ステップ S332 の確認より、受信したメッセージが、自端末装置にとって情報を取得すべきホスト端末装置からのメッセージであるか否かを判別する（ステップ S333）。

【0106】

ステップ S333 の判別の結果、情報を取得すべきでないホスト端末装置からのメッセージである場合、ステップ S331 へと戻り、再度他のホスト端末装置からのメッセージ待ち状態となる。

【0107】

ステップ S333 の判別の結果、情報を取得すべきホスト端末装置からのメッ

セージである場合、そのメッセージが、ログオフメッセージであるか否かを判別する（ステップ S 334）。

【0108】

ステップ S 334 の判別の結果、ログオフメッセージである場合、当該メッセージを送ってきたホスト端末装置の情報を共有リソース管理情報から削除する（ステップ S 335）。

具体的には、共有リソース管理情報が個々のホスト端末装置で保持されている場合、自端末装置内の共有リソース管理情報から、ログオフメッセージを送ってきたホスト端末装置の情報を削除する。また、共有リソース管理情報がネットワーク全体情報管理モジュール 71 によって保持されている場合、ネットワーク全体情報管理モジュール 71 を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 120）に対して、削除要求を行なう。

その後、ステップ S 331 へと戻り、再度他のホスト端末装置からのメッセージ待ち状態となる。

【0109】

ステップ S 334 の判別の結果、ログオフメッセージでない場合、当該メッセージがログオンメッセージであるか否かを判別する（ステップ S 336）。

【0110】

ステップ S 336 の判別の結果、ログオンメッセージでない場合、すなわちログオン、オフ以外のメッセージが受信された場合、当該メッセージの内容に応じた適切な処理を実行する（ステップ S 338）。

その後、ステップ S 331 へと戻り、再度他のホスト端末装置からのメッセージ待ち状態となる。

【0111】

ステップ S 336 の判別の結果、ログオンメッセージである場合、共有リソース管理情報がどこで保持されているかを判別する（ステップ S 337）。

【0112】

ステップ S 337 の判別の結果、共有リソース管理情報がネットワーク全体情報管理モジュール 71 によって保持されている場合、そのネットワーク全体情報

管理モジュール 7 1 を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 1 2 0）に対して、ログオンメッセージを送ってきたホスト端末装置の情報の取得要求を行なう（ステップ S 3 4 0）。

その後、ステップ S 3 4 1 へと進む。

【0 1 1 3】

ステップ S 3 3 7 の判別の結果、共有リソース管理情報が個々のホスト端末装置で保持されている場合、ログオンメッセージを送ってきたホスト端末装置に対して、その詳細情報の取得要求を行なう（ステップ S 3 3 9）。これにより、自端末装置に対しては、ログオンメッセージを送ってきたホスト端末装置のローカル管理情報（上記図 5 参照）が返送されてくる。

その後、ステップ S 3 4 1 へと進む。

【0 1 1 4】

ステップ S 3 3 9 又は S 3 4 0 により取得した情報を共有リソース管理情報へ追加（或いは更新）する（ステップ S 3 4 1）。

【0 1 1 5】

[ホスト端末装置のログオフ動作]

図 1 3 は、ホスト端末装置 1 1 0 a，1 1 0 b，1 1 0 c，1 2 0 のログオフ動作を示したものである。

【0 1 1 6】

先ず、自端末装置が、他のホスト端末装置からの要求に基づいた処理を実行中であるか否かを判別する（ステップ S 3 5 1）。

【0 1 1 7】

ステップ S 3 5 1 の判別の結果、処理実行中でない場合、次のステップ S 3 5 2 及び S 3 5 3 の処理は実行せずに、そのままステップ S 3 5 4 へと進む。

【0 1 1 8】

ステップ S 3 5 1 の判別の結果、処理実行中である場合、当該処理を要求してきたホスト端末装置に対して、当該処理の中止を通知する（ステップ S 3 5 2）

。

【0 1 1 9】

そして、ステップ S 3 5 2 の通知に対して、当該通知先のホスト端末装置から中止許可応答が返送されてきたことを確認後、現在実行している処理を中止する（ステップ S 3 5 3）。

【0 1 2 0】

ステップ S 3 5 3 の処理後、又はステップ S 3 5 1 の判別により処理実行中ではない場合、すなわち自端末装置が現在処理実行中の状態でなくなると、ネットワーク 1 3 0 上の他のホスト端末装置に対して、自端末装置がログオフをすることをブロードキャストによって通知する（ステップ S 3 5 4）。

【0 1 2 1】

また、管理機能を有するホスト端末装置（ここでは、管理サーバ 1 2 0）に対して、ログオン時に自端末装置に与えられたログオンライセンスの解放を通知する（ステップ S 3 5 5）。

【0 1 2 2】

そして、自端末装置の終了処理を継続して行う（ステップ S 3 5 6）。

【0 1 2 3】

尚、本発明の目的は、上述した実施の形態のホスト及び端末の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記憶した記憶媒体を、システム或いは装置に供給し、そのシステム或いは装置のコンピュータ（又は CPU や MPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読みだして実行することによっても、達成されることは言うまでもない。

この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が本実施の形態の機能を実現することとなり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することとなる。

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、ROM、フロッピーディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード等を用いることができる。

また、コンピュータが読みだしたプログラムコードを実行することにより、本実施の形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼動している OS 等が実際の処理の一部又は全部を行い、

その処理によって本実施の形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された拡張機能ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部又は全部を行い、その処理によって本実施の形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0 1 2 4】

【発明の効果】

以上説明したように本発明では、サーバ手段とクライアント手段の両者を設けると共に、これらの手段を接続する通信手段を設けることで、他の装置との情報のやりとり時であっても、自装置内での情報のやりとり時であっても、その違いを意識することなく、同様に動作するように構成した。また、汎用的なインターフェース等を有するサーバ手段の拡張機能としてのサーバ拡張手段と、汎用的なインターフェース等を有するクライアント手段の拡張機能としてのクライアント拡張手段との両者を設けるように構成した。さらに、ネットワーク上に存在する共有デバイスの情報を一元管理し、共有デバイスを有する端末装置から公開される当該共有デバイスの情報に基づいて、共有デバイスの管理情報を更新（追加や削除等）を行なうように構成した。

これにより、ネットワーク上の共有リソースの情報を容易に取得することができ、これを効率的に管理することができる。

また、様々な種類の共有リソースの追加及び削除を容易に実現でき、新たな共有リソースの出現時にはそれを自由に且つ容易に使用できる。

また、汎用のインターフェースを持つサーバ機能とクライアント機能の拡張機能（サーバ拡張機能、クライアント拡張機能）によって、新たな属性を持ったリソースがネットワーク上に出現した時にも、汎用のインターフェースを利用して、自由にそれを共有することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明を適用したネットワークシステムの構成を示すブロック図である。

【図 2】

上記ネットワークシステムのホスト端末装置の構成を示すブロック図である。

【図 3】

上記ネットワークシステムにおいて、サーバ側としてのホスト端末装置のサーバ機能と、クライアント側としてのホスト端末装置のクライアント機能と間におけるモジュール構成を説明するための図である。

【図 4】

同一ホスト端末装置内における上記サーバ機能と上記クライアント機能のモジュール構成を説明するための図である。

【図 5】

上記ホスト端末装置のローカル管理情報を説明するための図である。

【図 6】

上記ローカル管理情報のリソース情報を説明するための図である。

【図 7】

上記ネットワークシステム内の全共有リソースの管理情報を説明するための図である。

【図 8】

上記ホスト端末装置間の通信で用いられるデータ構造を説明するための図である。

【図 9】

上記ホスト端末装置の表示画面を説明するための図である。

【図 1 0】

上記ホスト端末装置の立ち上がり時の動作を説明するためのフローチャートである。

【図 1 1】

上記ネットワークシステム内の共有リソースへのアクセス動作を説明するためのフローチャートである。

【図 12】

上記全共有リソースの管理情報の追加／更新処理を説明するためのフローチャートである。

【図 13】

上記ホスト端末装置のログオフ動作を説明するためのフローチャートである。

【符号の説明】

- 1 システムバス
- 2 CPU
- 3 プログラム・メモリ
- 4 通制御部
- 5 通信ポート
- 6 通信回線
- 7 ネットワーク上の他のホスト端末装置
- 8 外部記憶装置制御部
- 9 フロッピーディスク
- 10 ハードディスク
- 11 入力制御部
- 12 キーボード
- 13 マウス
- 14 ビデオ・イメージ・メモリ
- 15 表示出力制御部
- 16 CRT
- 17 プリンタ制御部
- 18 プリンタ
- 19 外部機器制御部
- 1A 画像入力装置制御部
- 1B 画像入力機器
- 100 ネットワークシステム
- 110a, 110b, 110c, 120 ホスト端末装置

1 1 1 ネットワークサーバ機能

1 1 2, 1 2 2 ネットワーククライアント機能

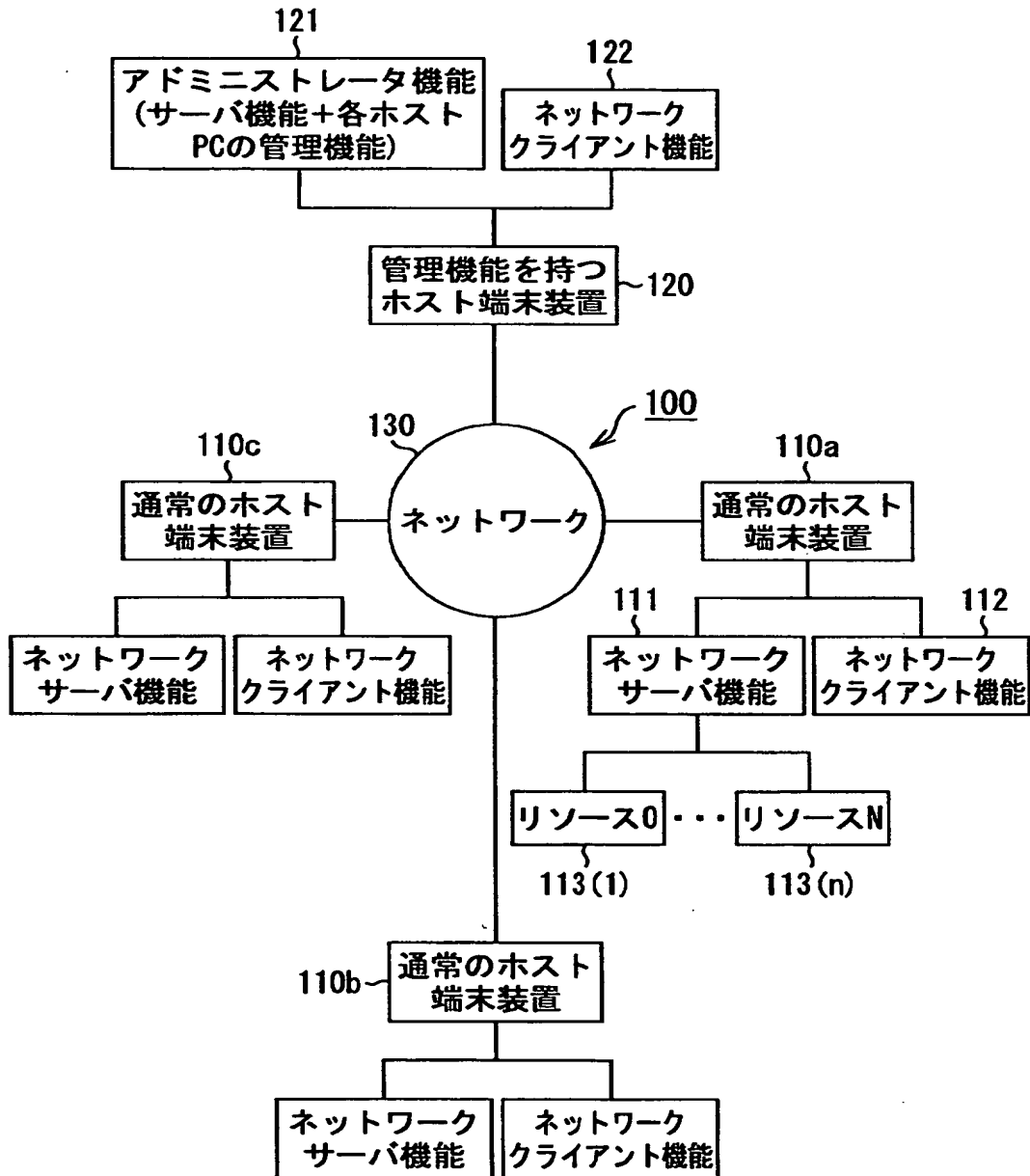
1 1 3 (1), . . . , 1 1 3 (N) リソース

1 2 1 アドミニストレータ機能

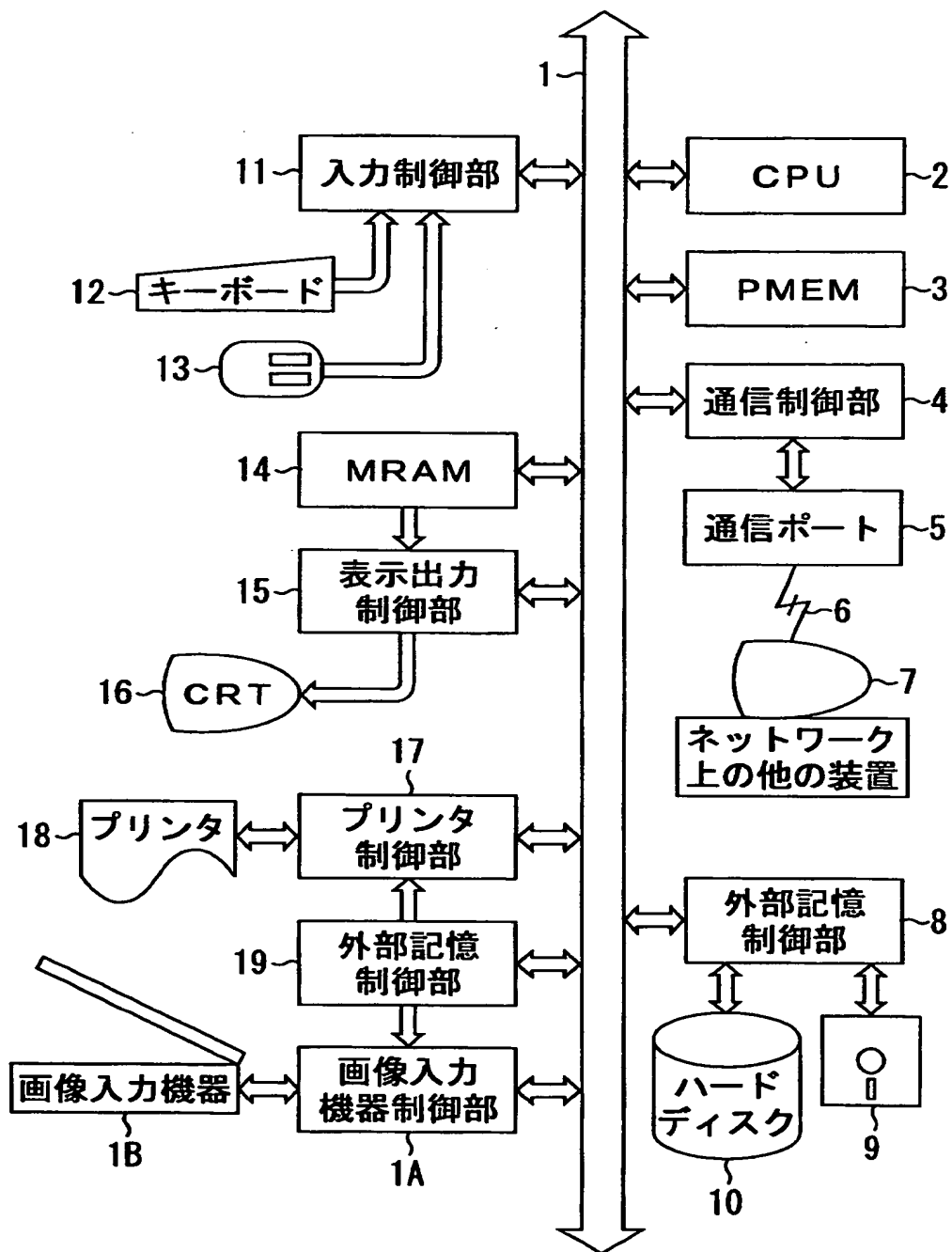
1 3 0 ネットワーク

【書類名】 図面

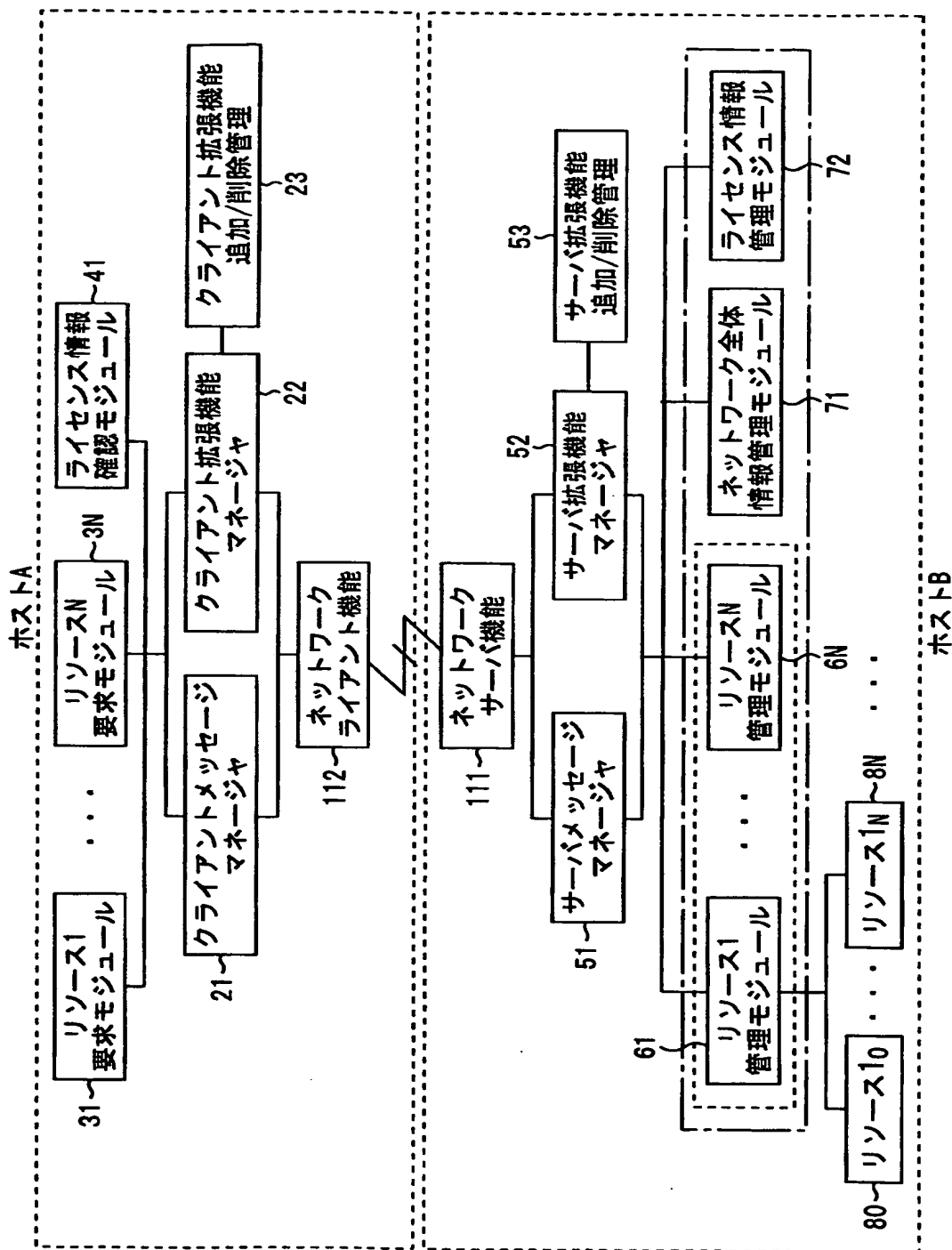
【図 1】



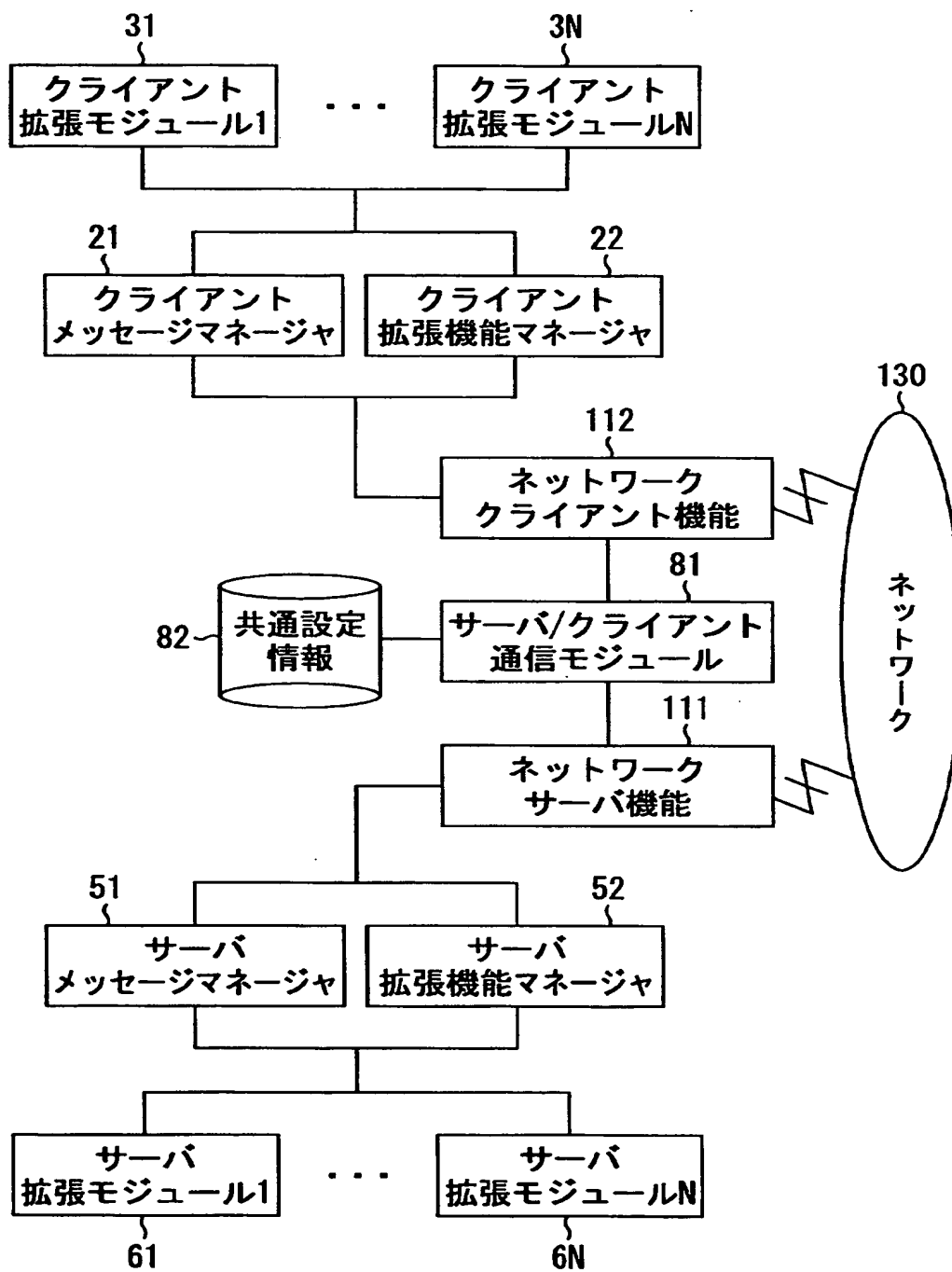
【図 2】



【図 3】



【図 4】



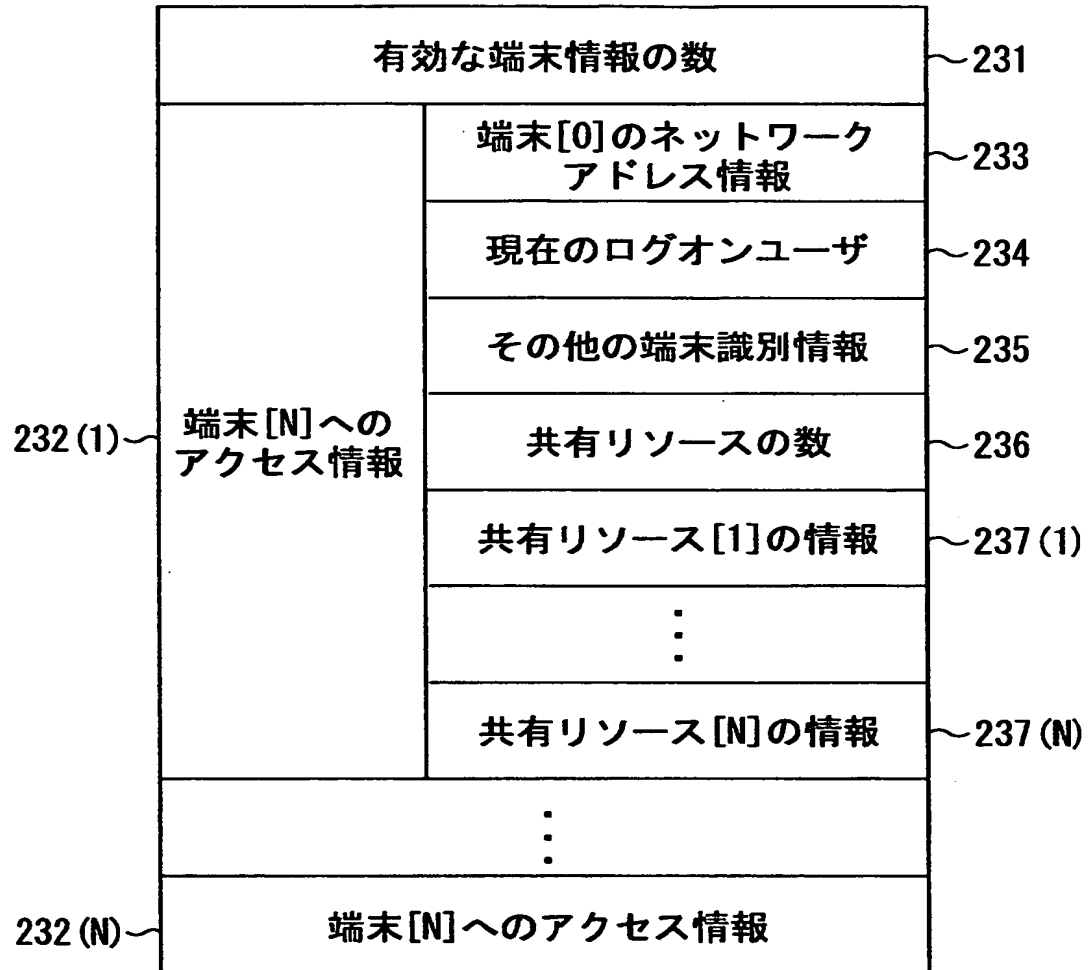
【図 5】

情報の数	〜 201
自機のネットワークアドレス情報	〜 202
ログオンユーザ情報	〜 203
セキュリティ管理情報	〜 204
サーバ拡張機能情報	〜 205
自機のリソース情報	〜 206
クライアント拡張機能情報	〜 207
ライセンス情報	〜 208
その他の管理情報	〜 209

【図 6】

情報の数		～ 211
リソース種別情報		～ 212
リソース情報に於けるその他の管理情報		～ 213
214(1)～ リソース[1] の情報	リソース名称	～ 215
	ネットワーク共有名称	～ 216
	共有のセキュリティ情報	～ 217
	ドライバ情報	～ 218
	カラー情報	～ 219
	リソース機器拡張情報	～ 220
	ステータス情報	～ 221
	その他のリソース情報	～ 222
⋮		
リソース[N]の情報		～ 214(N)

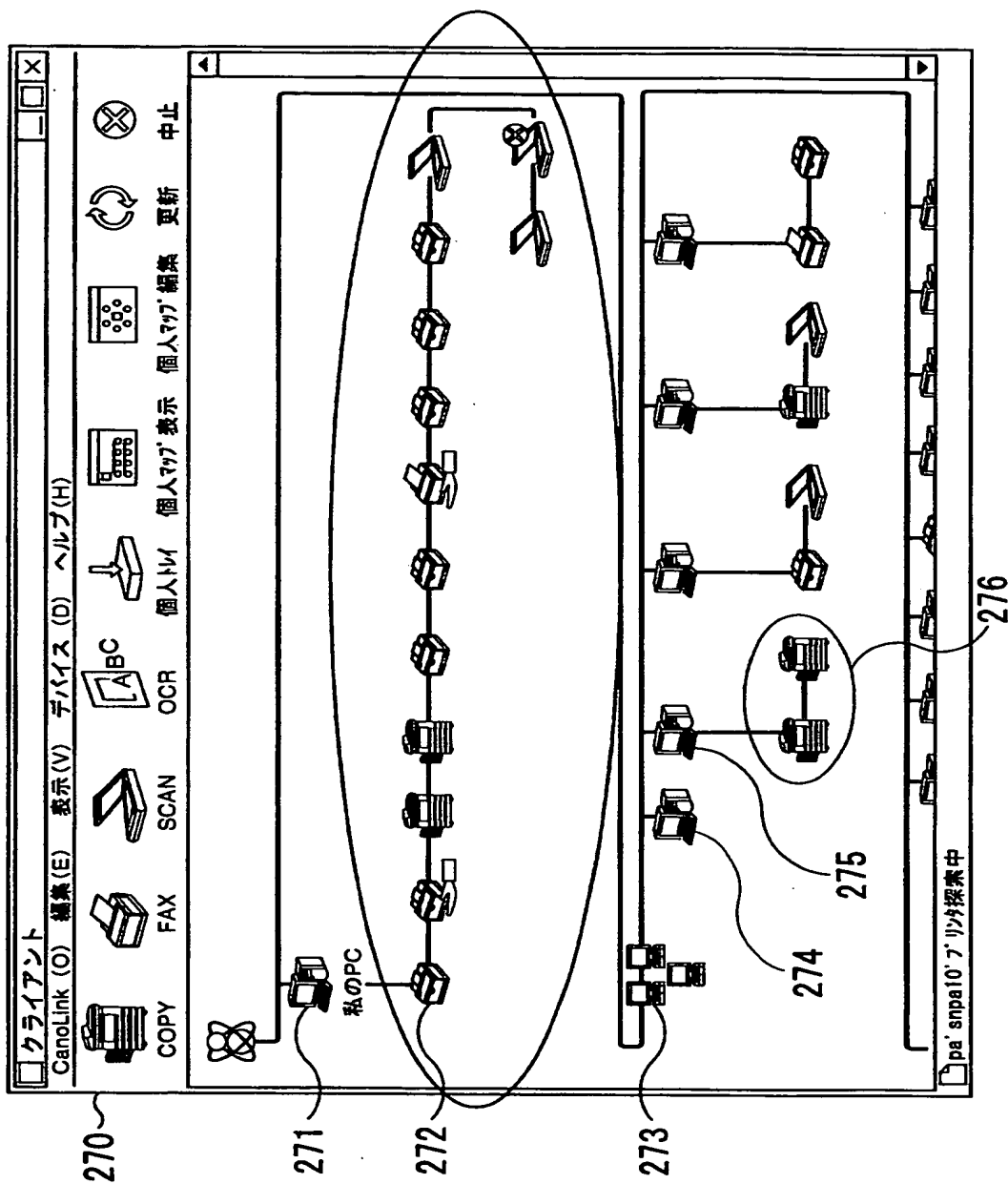
【図 7】



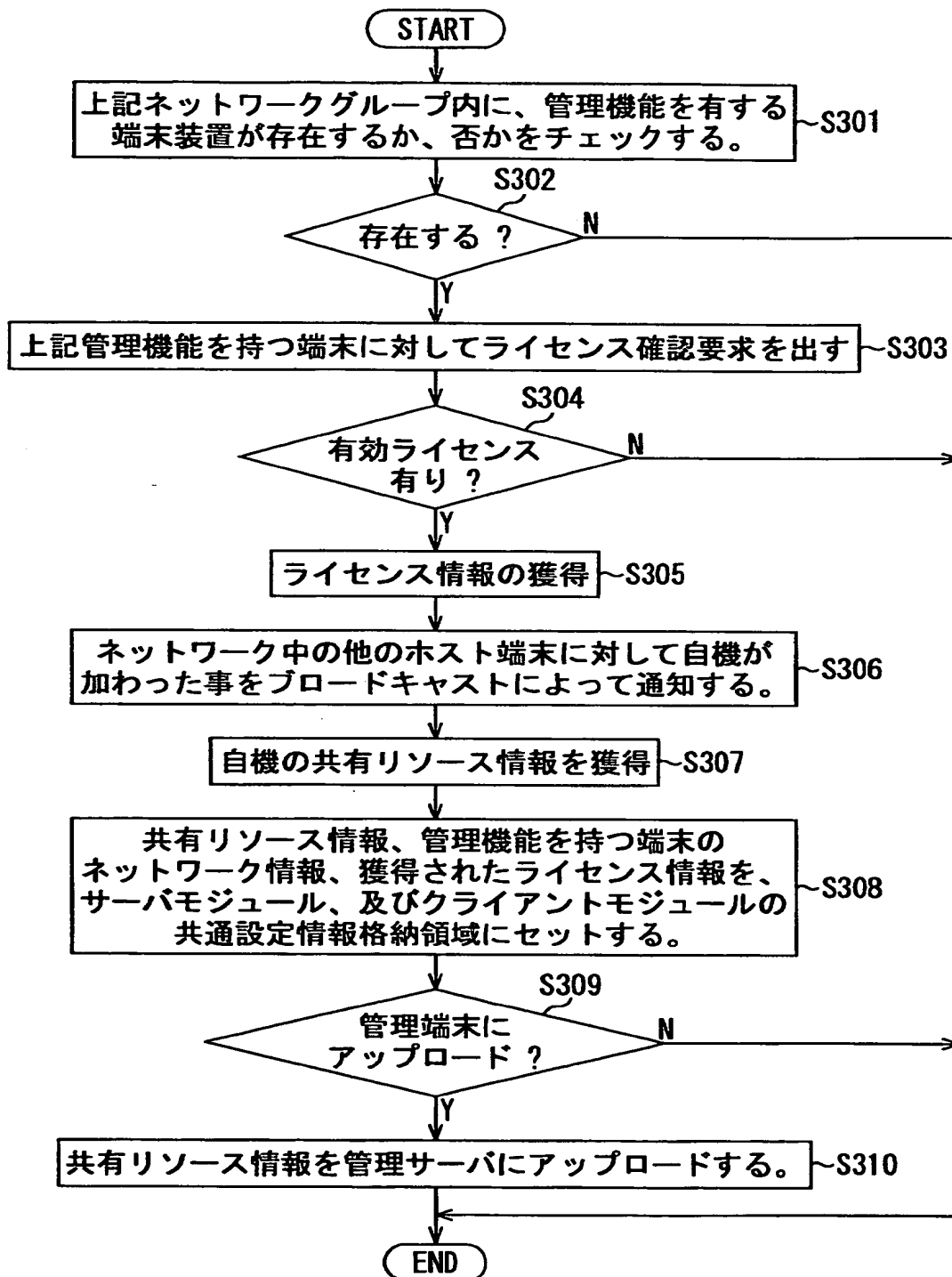
【図 8】

240	ヘッダ情報	識別情報	〜 241
		バージョン情報	〜 242
		データ属性情報	〜 243
		データへのオフセット	〜 244
		その他管理情報	〜 245
250	送信実データ	送信先端末のネットワーク 情報	〜 251
		サーバ拡張モジュール 識別情報	〜 252
		サーバ拡張モジュールへの 要求機能	〜 253
		セキュリティ情報	〜 254
		データ本体	〜 255
		その他の管理情報	〜 256
260	送信元データ	送信元端末のネットワーク 情報	〜 261
		ログオンユーザ情報	〜 262
		タイムアウト設定情報	〜 263
		その他の管理情報	〜 264

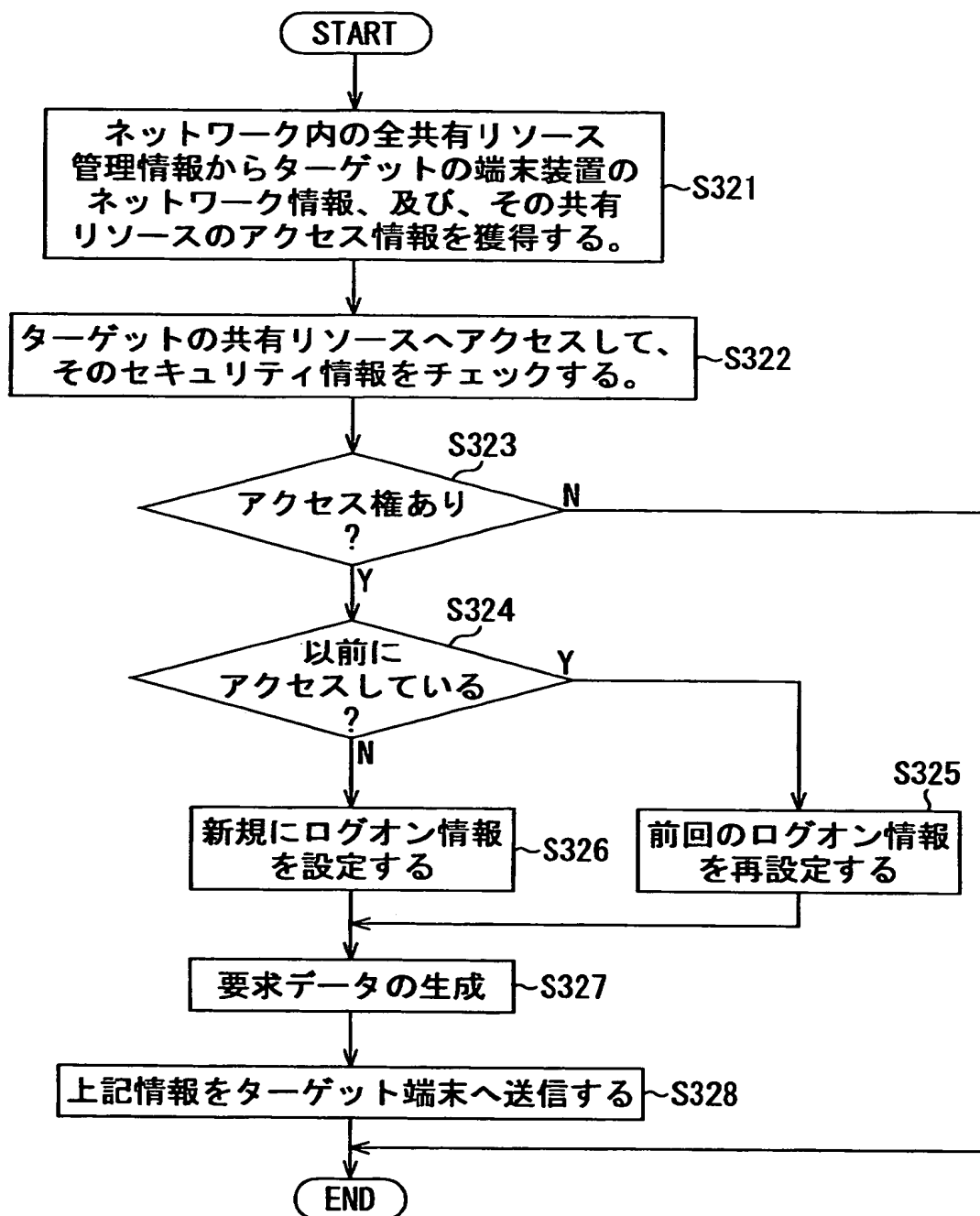
【図 9】



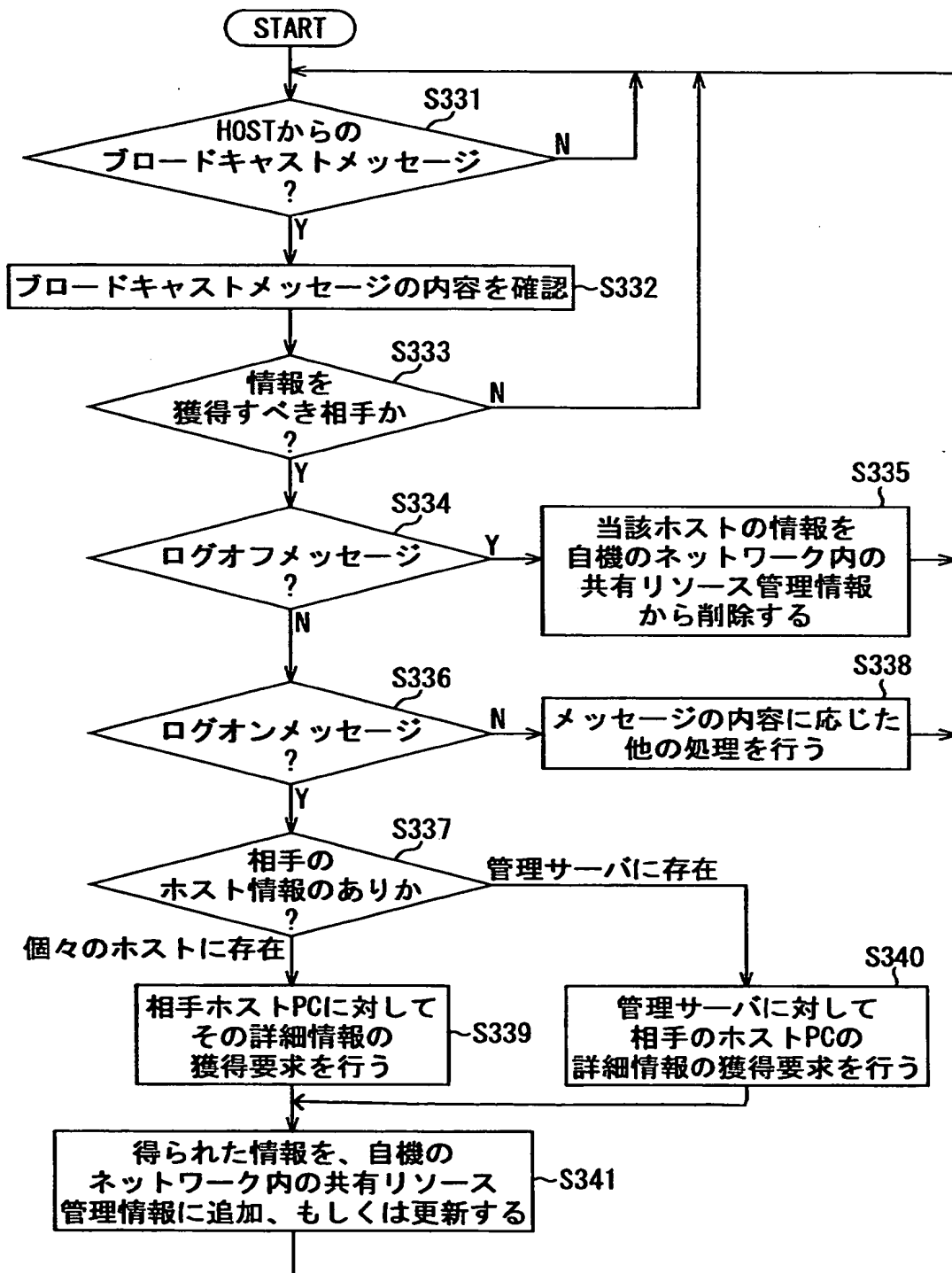
【図 1 0】



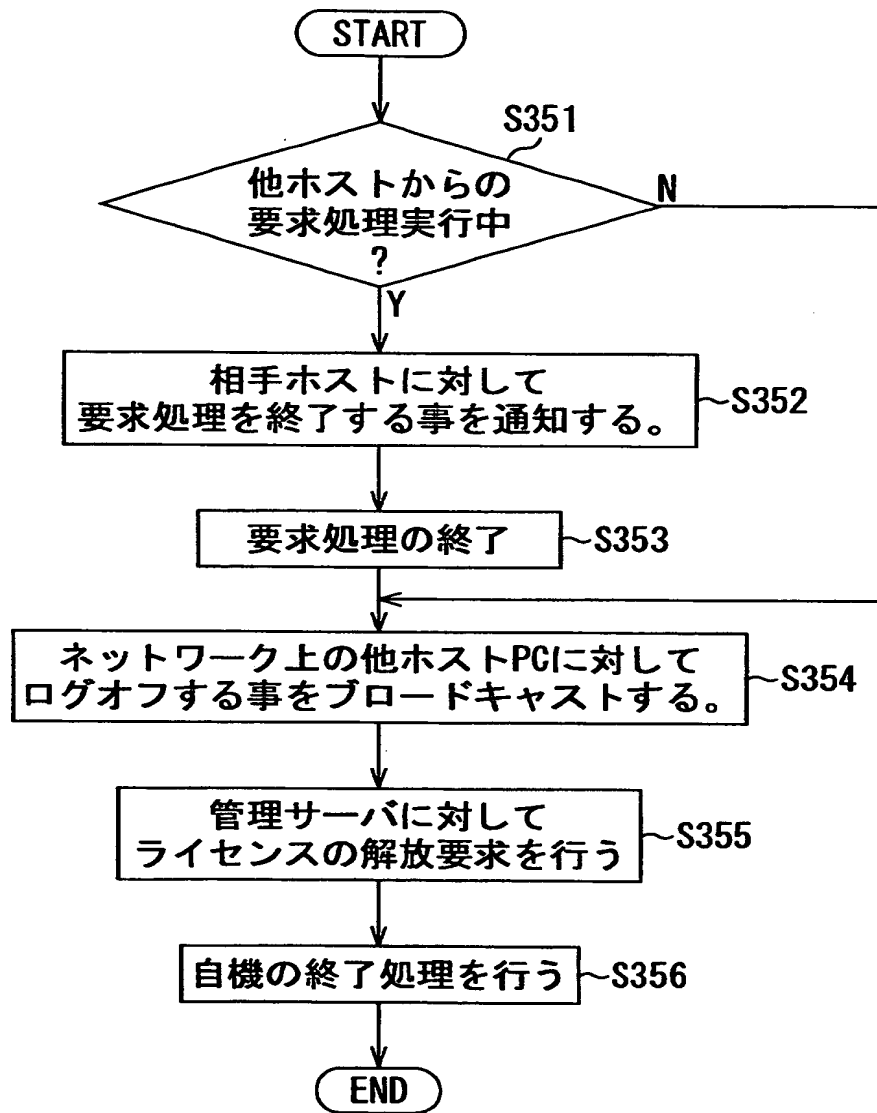
【図 1 1】



【図 12】



【図 1 3】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ネットワーク上の共有リソースを効率的に一元管理することができ、様々な種類の共有リソースの追加及び削除を容易に実現でき、新たな共有リソースの出現時には当該共有リソースを汎用インターフェースを利用して自由に且つ容易に使用できる端末装置を提供する。

【解決手段】 ネットワーク 1 3 0 上の各端末装置 1 1 0 a, 1 1 0 b, 1 1 0 c, 1 2 0 のそれぞれに対して、サーバ手段 1 1 1 とクライアント手段 1 1 2 の両者を設ける。これらの手段 1 1 1, 1 1 2 は、他の装置との情報のやりとり時であっても、自装置内での情報のやりとり時であっても、その違いを意識することなく、同様に動作する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 1 0 0 7]

1. 変更年月日	1 9 9 0 年 8 月 3 0 日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都大田区下丸子 3 丁目 3 0 番 2 号
氏 名	キヤノン株式会社